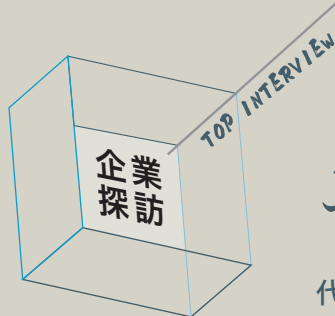




エンケイマカベ株式会社

代表取締役社長 成田 利夫氏

製造グループ 取締役部長 福嶋 三佐夫氏

本社 茨城県桜川市真壁町下小幡35

設立 1969年12月15日

従業員数 2024年6月1日現在 95名

事業概要 四輪用アルミホイールの製造



株式会社筑波銀行
真壁支店長 雨貝 康晴

筑波総研株式会社
代表取締役社長 木村 伊知郎

エンケイマカベ株式会社
代表取締役社長
成田 利夫氏

エンケイマカベ株式会社
製造グループ 取締役部長
福嶋 三佐夫氏

One Step Forward ちょびっとだけ、先に。



会社設立の経緯を語る成田社長

エンケイグループの中核事業は アルミホイールの製造

「エンケイ株式会社」さんの名前の由来を教えてください。

エンケイグループの中核企業、エンケイ株式会社の前身は、1950年(昭和25年)10月5日に静岡県浜松市に設立された遠州軽合金株式会社です。

1989年に社名を「エンケイ」に改めましたが、それは遠州軽合金の「遠州の(エン)」と「軽合金の(ケイ)」から取ったものです。

エンケイグループは、中核事業としてアルミホイールの設計から開発、製造、販売までを一貫して行っています。ほかに社内および社外のアルミホイール・エンジン部品に関する強度性能試験など、各種試験を行っています。

加えてアルミホイールの製造で磨き上げてきた高度な鑄造技術を発展させ、自動車のエンジンや船外機用も、形状の複雑なアルミ部品の設計、開発、製造、販売も行っています。国内有力メーカーの四輪、二輪、船外機などに採用されているほか、海外メーカーにも提供しています。

さらに精密部品の鑄造に適したロストワックス製法を取り入れた医療機器や光学機器分野の部品の製造、飲食店や雑貨店の運営なども行っています。

エンケイグループは現在、国内12社、アメリカやタイなど海外16社で構成されています。

創業者の出身地・真壁に 新たな生産拠点を設立

「エンケイグループ」さんの企業のほとんどが静岡県浜松市、磐田市にあり、海外もアメリカ、タイなど8か国にありますが、なぜ茨城県の真壁町に「エンケイマカベ」さんを設立されたのですか。



インタビュー日/2024年5月8日

(聞き手：筑波総研株式会社 代表取締役社長
木村伊知郎)

取引支店：株式会社筑波銀行 真壁支店

エンケイマカベ株式会社は、1969年(昭和44年)12月15日に設立されました。設立の目的は、当時エンケイでアルミホイールの生産量が順調に増加するなか、製造業が集中する浜松周辺では人手不足が深刻であり、人手が確保できる地域への工場進出が必要となったためです。

当地に設立された経緯について、わたしが聞いた話では、エンケイの創業者で、初代社長の鈴木建次が茨城県真壁郡の旧大和村の出身であり、茨城県立下館商業学校(現・茨城県立下館第一高等学校)の出身だったことから真壁には知人が多く、社員も集められるだろうと考えた、ということでした。

設立当初の社員は約120人で半数が女性でした。エンジン部品を鑄造する元となる砂型「シェルモールド」の組み立てを行っていました。

エンケイマカベの社屋・工場外観



四輪車のメーカー純正 「OEMホイール」を製造

「エンケイグループ」さんにおける「エンケイマカベ」さんの役割を教えてください。

当社は、四輪車のメーカー純正「OEMホイール」の製造に特化しており、国内の全自動車メーカー向けのアルミホイールを製造しています。グループ全体でもOEMホイールの製造が90%以上を占め、他にカスタマイズなどのニーズに対応する「アフターマーケット」のホイールを製造しています。



「アフターマーケット」ホイール

軽くて強くデザインにも優れた アルミホイールづくりのために

「エンケイマカベ」さんではどのような工程を経てホイールを製造されているのですか。

アルミホイールの製造工程は、「鋳造」「スピニング」「熱処理」「加工」「塗装」「検査」の各工程を経て行われています。「スピニング」は、鍛造に近い強度を持たせるための工程です。鍛造はコストがかかるため、鋳造後に強度を高めるスピニングを行い、製造コストを最小に抑えています。また、製造工程は自動化が進み、殆どの作業はロボットによって行われています。

アルミホイールのデザインは、グループ企業の株式会社エンケイエンジニアリングが担っています。「OEMホイール」はメーカーの要望を聞きながら、強度などを考慮して最終的にはエンケイエンジニアリングがデザインを行います。「アフターマーケット」のホイールは、社内にデザイナーがおり、デザインから手掛けています。なかには当社で手掛けた「アフター」のデザインが好評で、メーカーのOEMに採用されることもあります。

アルミホイールは、デザインも大事ですし強度も大事。デザインに凝りすぎると重くなってしまうので、そのバランスを取るのが難しい。そういった中、エンケイのアルミホイールは、その軽さに定評があり、そのうえ強度もあるのが特長です。

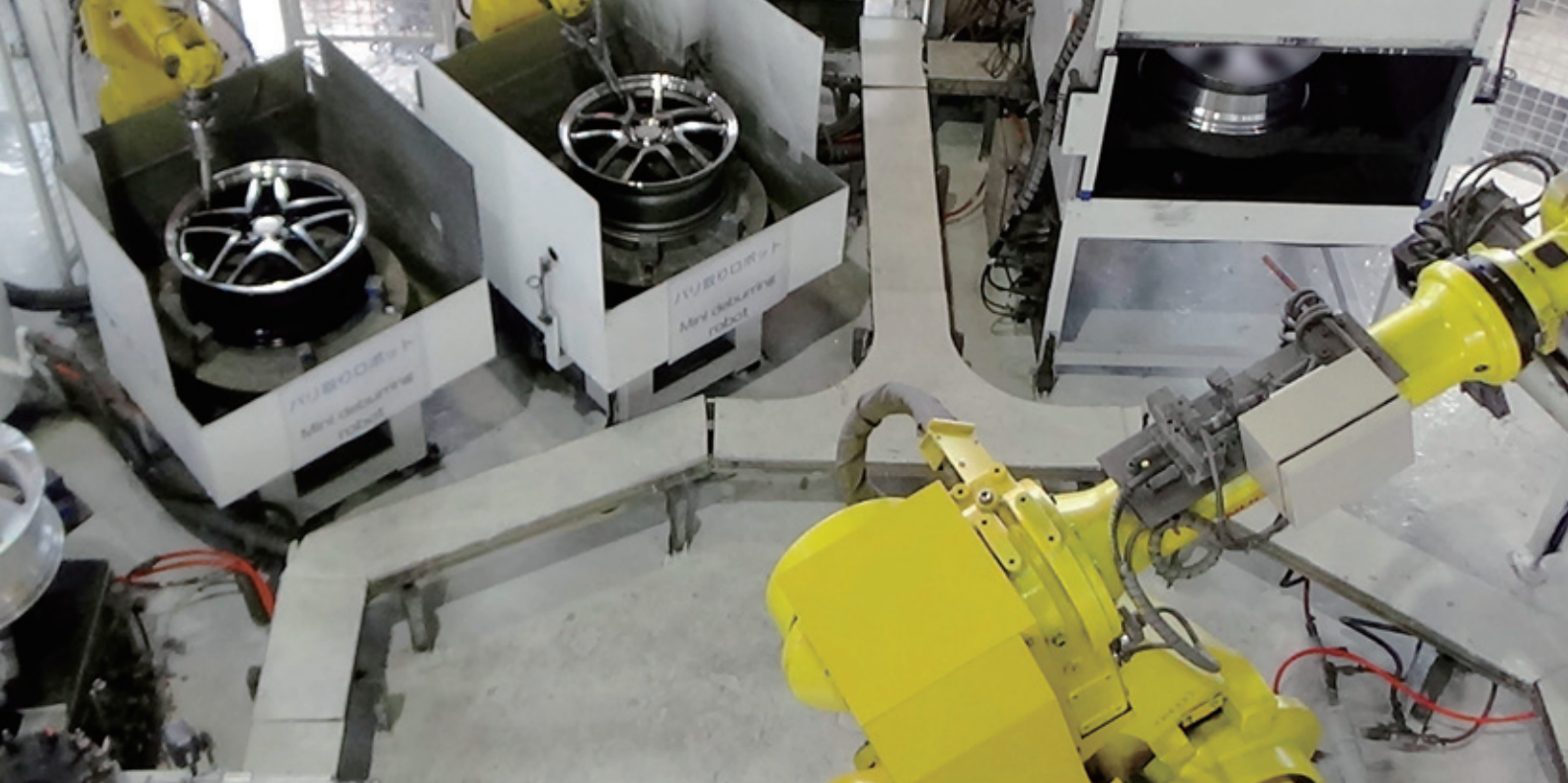
アルミホイールの製造機械を独自開発

製造の自動化のための取り組みについてお聞かせください。

現在、一連の製造工程で約40台のロボットが稼働しています。さらなる自動化、品質の向上のために、製

アルミホイール製造工場





自社開発した「バリ取りロボットシステム」

造機械の独自開発にも取り組んでいます。生産現場を見て「こういうことが自動でできたらいいな」ということがあれば、すぐに開発に取りかかるようにしています。

2018年からは「イノベーションで新技術を作る」という指針のもと、加工後にホイールのバリを取って表面を美しい仕上がりにする自動システムの開発に取り組み、試行錯誤のうえ遂に小型ロボットを使用した自動バリ取り装置の完成にこぎつけました。

「バリ取りロボットシステム」と名付けられたこの機械は5S監査で訪れたエンケイの鈴木社長（現会長）の目に留まり、エンケイグループ各社への販売展開が決定しました。これまで国内外のグループ工場に約100台



アルミホイールの完成品置き場

を販売、当社の新たな事業として確立しています。

現在、独自開発の第2弾として塗装の自動化に関するシステムの開発に取り組んでいるところで、すでに開発した製品を数台販売しています。



エンケイグループ3つの強み

「エンケイグループ」さんの強みはどのようなものでしょうか。

当社を含むエンケイグループには3つの強みがあります。

1つ目は生産体制です。エンケイグループでは「一個流しセル方式一貫ライン」を導入しています。従来、鋳造は鋳造区、熱処理は熱処理区、加工は加工区などと分けられていた作業工程を、溶解・鋳造・熱処理・加工の各工程を連結した「MAP (Most Advanced Production) システム」によりライン化し、アルミホイールの大量生産体制を確立しました。さらにそれを進化させた「MAC (Most Advanced Concept) システム」の開発にも成功しています。

このシステムを国内の全生産拠点はもちろん、海外のすべての拠点にも展開することで、世界中のどこであっても同じ生産方式と品質管理に基づく製品供給が可能となっています。

2つ目は「5S 監査」で、国内・海外で6か月に一度実施しています。会長自ら製造現場や事務所をまわり、各拠点の日頃の生産活動、改善、5S (整理・整頓・清掃・清潔・躰) 活動などを監査しています。社員もオプザーバーとして参加することで、他の部署の取り組みや改善を見ることで刺激を受け、良い点は取り入れるなど、日々の業務や活動の改善につなげています。

3つ目はエンケイグループの特徴である「日々決算」です。会社の業績を知る損益決算書は、通常であれば1か月に一度作成します。しかし、当グループでは部署ごとに毎日作成することで、良い結果は継続し、問題があればすぐに対応を取るようにしています。

たとえば当社では、MACラインの責任者のプラントマネージャーが1か月ごとに予定を作り、それをもとに毎日損益計算書を作成しています。プラントマネージャーは日々の損益の流れを把握することで、生産量や資材発注のタイミングを自らの裁量で決定するなど、現場でマネジメントを行うことができます。

品質・技術部門に女性を採用したい

現在、人手不足といわれているなかで、従業員さんの確保については、どのようにされていますか。

現在、当社の社員数は93人です。そのうち女性は12人で全体の12.9%を占めています。社員の多くは地

元桜川市や近隣の筑西市、笠間市、つくば市などから通っています。

新たな採用のためにいろいろ手は打っていますが、非常に厳しいのが現状です。インドネシアからの技能実習生18人を受け入れているほか、ハローワークにお願いしたり、採用年齢の引き上げなどで対応しています。

これからは、事務職が多い女性の活躍のフィールドを広げ、品質・技術部門にも女性を採用することで、人財を確保していきたいと考えています。



生き生きと働く社員の皆さん

海外で活躍するチャンスも

従業員さんに対する福利厚生制度、キャリアアップなどの取り組みについてお聞かせください。

福利厚生は本社に合わせて充実させており、例えば休日は現在年間118日あり、将来は120日にする予定です。育休も1年6か月取ることができ、女性社員の出産後の職場復帰や定着につながっていると思います。また、インドネシアの実習生のために社員寮を整備しています。

グループの拠点が海外に多数あることから、海外赴任も実施しています。当社からも本社で製造部門に勤務後、海外に赴任する社員が数人出ています。行き先はインドネシア、フィリピン、インドなどで、5年間赴任する社員もいます。

近年では、本社への出向や海外赴任を経て豊富な経験を積み、マネジメントにも強くなった若手社員が戻ってきています。今後、熟練技術者たちとともに新しいア

アイデアの原石を磨き続け、当社の中心を担ってくれることを期待しています。

グループ企業で飲食店や 雑貨店を経営

グループ企業の中には、餃子、大福を製造販売する会社があるとお聞きしましたが、どのような会社でしょうか。

グループ企業のエンケイリレーション株式会社では、物販事業として地元浜松市で飲食店や雑貨店の経営を行っています。「むつみ屋」という名称の店舗で大福や餃子の製造販売を行い、グループ社員をはじめ、一般のお客様にもご利用いただいています。

特に店舗名から名付けた「むつみ餃子」は販路拡大に力を入れています。鈴木会長の思い入れもあって具材にレンコンが入っているのですが、独特のシャキシャキ感が好評です。茨城県で有名な土浦のレンコンを使用したことも有ります。

当社でも社内販売しているほか外販も行っておりますが、購入されたお客様からは「おいしい」と喜ばれています。



むつみ餃子

常に一步先を見据えてチャレンジ

「エンケイ」さんは創業74年、「エンケイマカベ」さんは創業55年を迎えられるにあたり、エンケイマカベさんの今後の展望についてお聞かせください。

当社には塗装工程がないため、当社で製造したアルミホイールは、いったん静岡県磐田市にあるグループ企業のエンケイペインティング株式会社へ送って塗装



これからのビジョンを語る福嶋取締役部長

され、最終検査を経て完成品として全国の自動車メーカーなどに出荷されています。

現在、当社では運送会社に依頼して毎週月曜日から金曜日まで5台のトラックを使い運搬しています。運送業界の2024年問題やコスト面を考えると、将来的にはここに塗装工場を新設して一貫生産システムを構築することで、関東圏の自動車メーカーへ直接納品できる体制を整えたいと考えています。

課題は自社でノウハウのない塗装の技術と品質管理です。今後担当する社員の教育も含めて地道に力をつけ、是非とも実現したいです。

また、本社をはじめ多くのグループ企業は、静岡県浜松市と磐田市に集中しています。静岡県のある東海地方は巨大地震の発生が懸念される地域の一つです。当社に塗装工場を作って関東圏に納品できる体制を構築することは、グループのBCP(事業継続計画)として災害時の緊急事態に対応できるリスク分散機能も有すると考えています。

現在、海外から日本に輸入される4輪アルミホイールの数は年間1,500万本にのぼります。それに対してエンケイグループが製造・出荷しているのは約550万本に過ぎません。それを考えれば、まだまだ国内シェアを高められる余地はあるということです。課題の一つはコストですが、海外製品との価格差も縮まりつつあります。さらなる自動化でコストを削減し、今後も成長していければと考えています。

エンケイグループのフィロソフィーは「One Step Forward～ちょびっとだけ、先に～」です。常に一步先を見据えて人と違ったことをすること、その一步を踏み出す勇氣を持ち続けることを大切にしています。エンケイ本社が100年企業を目指す中、当社においてもこのスローガンは浸透しており、これからもエンケイグループの一員として、一つひとつ未来へ向けた挑戦を続けていきます。